

This Page Is Inserted by IFW Operations  
and is not a part of the Official Record

## BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning documents *will not* correct images,  
please do not report the images to the  
Image Problems Mailbox.

⑩ 日本国特許庁 (JP)

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報 (A)

昭55—29485

⑬ Int. Cl.<sup>3</sup>  
B 65 D 83/08

識別記号

庁内整理番号  
7617—3E

⑭ 公開 昭和55年(1980)3月1日

発明の数 1  
審査請求 未請求

(全 5 頁)

⑮ 弾力的にシールされるディスペンサ容器の口の蓋

オーストラリア国エヌエスダブリュ・ノース・ライド・ハーリング・ロード159

⑯ 特 願 昭54—73937

⑰ 出 願 人 ユニリーバー・ナームローゼ・ベンノートシャープ

⑱ 出 願 昭54(1979)6月12日

優先権主張 ⑲ 1978年6月12日 ⑳ オーストラリア(AU)㉑ PD4695/78

オランダ国ロッテルダム・バージミースターズ・ヤコブブレン1

㉒ 発 明 者 ロバート・セシル・マクフアディエン

㉓ 代 理 人 弁理士 浅村皓 外4名

明細書の修正(内容に変更なし)  
明 細 書

1. 発明の名称

弾力的にシールされるディスペンサ容器の口の蓋

2. 特許請求の範囲

(1) 相互に完全に不整合に貫通する夫々の開口部を有する内、外側ダイヤフラムを備え、少くとも1つの該ダイヤフラムの開口部が、他のダイヤフラムで弾力的にシールされることを特徴とするディスペンサ容器の口の蓋。

(2) 前記ダイヤフラムが、その1つのみの開口部を包囲する少くとも連続的な接触領域上で相互に接触することを特徴とする特許請求の範囲第1項記載の蓋。

(3) 接触領域が、前記各ダイヤフラムの開口部を包囲することを特徴とする特許請求の範囲第2項記載の蓋。

(4) 前記接触領域が、前記ダイヤフラムの開口部を縁取ることを特徴とする特許請求の範囲第2項または第3項記載の蓋。

(5) 自由端で終る如くダイヤフラムから延びる截頭円錐形壁部が、該ダイヤフラムに開口部を形成することを特徴とする特許請求の範囲第4項記載の蓋。

(6) 前記外側ダイヤフラムが、後述円錐形壁部を備えることを特徴とする特許請求の範囲第5項記載の蓋。

(7) 前記ダイヤフラムの截頭円錐形壁部が、弾力的であることを特徴とする特許請求の範囲第5項または第6項記載の蓋。

(8) 前記截頭円錐形壁部が、斜円錐の一部であることを特徴とする特許請求の範囲第5項及至第7項のいずれかの項記載の蓋。

(9) 前記ダイヤフラムの開口部が、端縁フランジを備えることを特徴とする特許請求の範囲第1項及至第8項のいずれかの項記載の蓋。

(10) 前記内側ダイヤフラムが、前記容器の口に噛込み係合する如く構成され、前記外側ダイヤフラムが、該内側ダイヤフラムに噛込み係合することを特徴とする特許請求の範囲第1項及至第9項の

いずれかの項記載の蓋。

(4) 嚙込み嵌合の外側キャップを備えることを特徴とする特許請求の範囲第1項及至第10項のいずれかの項記載の蓋。

### 3. 発明の詳細な説明

本発明は、湿潤な薄葉紙（ティッシュ）等を貯蔵し配分する容器の蓋、特に、該容器内のティッシュを長期間にわたり湿潤状態に維持する如く構成される容器の蓋に関する。該ティッシュは、適当な方法の分離可能なティッシュが得られる如く離隔した横線で好適にミシン目を入れられ連続的に巻かれた長さないし折畳まれた長さにおいて容器内に貯蔵される。該容器は、下記では、デイスペンサ容器と称せられる。

通常、デイスペンサ容器は、それからティッシュを引出し可能な真直な形状または十字形のスリットの形態の容器の1つの壁での開口部を有している。これ等の従来技術のデイスペンサ容器の問題は、次に引出されるティッシュの一部が、必ずスリットの開口部から突出ねばならず、スリット

つて2つのダイアフラム間を通り、該開口部を通つて容器の外部に達せねばならない。接触領域を横切る1つの開口部から他の開口部へのティッシュの通過は、勿論、ダイアフラムの弾力的な撓みないし変形の結果として許容される。

ダイアフラムの全面積が相互に接触する代りに、該ダイアフラムは、1つのダイアフラムのみの開口部を包囲する少くとも連続的な接触領域上で相互に接触してもよい。該接触領域は、1つの開口部を他の開口部からシールし、例えば、開口部を包囲するリブないし突起で形成されてもよい。両者のダイアフラムの開口部を包囲する接触領域を設けることにより、開口部間のシールを向上可能である。

便利に、接触領域は、ダイアフラムの開口部を横切る。

截頭円錐形壁部は、ダイアフラムの開口部を形成する自由端で終る如く、ダイアフラムから延びてもよい。截頭円錐形壁部は、外側ダイアフラムにあつてもよく、該截頭体は、ダイアフラムの上

特開昭55-29485(2)

の端縁を甚しい程度にまで分離し得る点にある。この分離は、ティッシュがその湿潤状態に含浸される蒸発性流体の幾分かの喪失を許容する。

従つて、本発明の目的は、蒸発性湿潤流体の大気への直接の喪失が、通常のスリット壁容器に比して低減されるデイスペンサ容器の蓋を提供することである。

本発明は、相互に完全に不整合な貫通する開口部を夫々有する内、外側ダイアフラムを備え、少くとも1つの該ダイアフラムの開口部が、他のダイアフラムで弾力的にシールされるデイスペンサ容器の口の蓋を提供する。

従つて、本発明の恐らく最も簡単な形態のものでは、蓋は、相互に対して平坦に横たわり2つの開口部が完全に不整合の如く夫々の開口部が貫通する2つの弾力的なダイアフラムを備え、各ダイアフラムが他のダイアフラムの開口部を弾力的にシールする。この場合には、ティッシュが容器から除去されるとすれば、ティッシュは、1つの開口部を通過した後、他の開口部へ接触領域を横切

部に凹所を形成し、該凹所には、次に引出されるティッシュの自由端が、収容可能であり、使用者の指の間に容易につまみれる。

截頭円錐形壁部は、弾力的でもよく、特に良好なシールは、截頭体の自由端の開口部を横切る接触領域と、他のダイアフラムとの間に形成可能である。

截頭円錐形壁部が使用中に反転される惧れを低減する如く、截頭円錐形壁部は、好ましくは、斜円錐の截頭体である。

ダイアフラムの開口部は、ティッシュが該開口部から引出されるときに破断する惧れを低減する如く、該開口部の端縁の少くとも一部に沿つて延びる端縁フランジを備えてもよい。

便利な構造は、容器の口に嚙込み係合する如く構成される内側ダイアフラムと、該内側ダイアフラムに嚙込み係合する如く構成される外側ダイアフラムとを設けることである。外側の嚙込み嵌合のキャップは、使用の間に次に引出されるティッシュの突出した自由端が乾燥するのを低減する如く、

外側ダイアフラムの開口部を被う様に設けられてもよい。

本発明の一実施例は、添附図面を参照し例として下記に説明される。

図示の蓋は、口の周囲に戻り止めリブ5を有する上部開口管状容器4の口に装着して示される。

蓋は、硬質ないし剛性の内側ダイアフラム6を備え、該ダイアフラムは、平坦な中央部7と、内外側戻り止めリブ10, 9を有するチャンネル形円周フランジ構造8とを備えている。外側戻り止めリブ9は、容器4に密封係合をなしてダイアフラムを固定する如く容器の口の戻り止めリブ5に噛込み嵌合する。

ダイアフラム6の中央部7は、幾分楕円形の形状に形成された開口部11を有している。ダイアフラムの中心により近い開口部11の彎曲した端縁は、ダイアフラムと一体の下方に向くフランジ12で限定される。

外側ダイアフラム13は、弾性材料または弾性樹脂材料で作られる。外側ダイアフラムは、平坦

外蓋キャップ20は、一体のヒンジ21で内側ダイアフラムのフランジ構造8に固定される。該キャップは、閉鎖位置で蓋に噛込み嵌合し、容器が閉鎖されたときに好ましい外観を呈するだけでなく、容器の口に対する密封状シールを全体の蓋に与えるのに役立つ。

使用の際、容器は、その内部に充填される折畳まれた或る長さのティッシュシートを有し、所望により芳香を与えてもよい潤滑用流体を有し得る。ティッシュシートは、適当な寸法の分離可能なティッシュを形成する如く、離隔した横方向直線上で好適にミシン目を入れられる。

引出される始めのティッシュの自由端は、内側ダイアフラムの開口部11を通過して延び、開口部11に完全に不整合の開口部18のリム17の下に圧縮され、これにより、ダイアフラム6の中央平坦部7に圧力接触状態で保持される。従つて、所定の長さのティッシュの自由端は、後頭円錐形壁部15で形成される凹所内でほぼ第3図に示す如く位置し、使用者によつて容易に握ることが可

部14を有し、弾力的な後頭円錐形壁部15は、リム17を有しダイアフラム13を貫通する開口部を形成する楕円形開口部18の自由端で終る如く平坦部14から延びる。壁部15は、斜めのほぼ楕円形の円錐の後頭体であり、従つて、開口部18の周囲の傾斜面は、開口部の周辺のまわりに場所によつて異なる巾を有している。

外側ダイアフラム13は、内側ダイアフラムのフランジ構造8の内側戻り止めリブ10に噛込み嵌合する戻り止めリブ9を有する戻り止めリムフランジ18で所定の位置に固定される。

外側ダイアフラムの開口部18のリム17は、内側ダイアフラムに対して所定の位置に固定されるとき、内側ダイアフラムの平坦部7に弾力的に接触し、外側ダイアフラムにおいてのみ開口部18を包囲するが内側ダイアフラムの開口部11を包囲しない重複しない連続的な接触領域を形成する。開口部18のリムの内側ダイアフラムとの弾力的な係合は、容器をシールする如く開口部18のほぼ密封状のシールを形成する。

能である。ティッシュは、次に引出されるティッシュの自由端を握り開口部18を介して容器から引出することにより、所望の如く引出し可能である。

ティッシュが引出されるとき、次のティッシュの一部は、初めてのティッシュが引裂かれる以前に、ダイアフラム13の後頭円錐形部の弾力的な変形の結果、開口部18のリム17の下に引出され、従つて、次のティッシュは、容易に除去可能になる。

所定の長さのティッシュが内側ダイアフラムの開口部11に進入する際、ティッシュは、開口部11の端縁のフランジ12を摩擦し、フランジ12は、該フランジがなければティッシュに対して現われる開口部11の比較的鋭利な端縁でティッシュが引裂かれるのを防止する。

外側ダイアフラムの開口部18を介するティッシュの引出しは、後頭円錐形部を反転しようとするが、この恐れは、該後頭体が斜円錐のものであるために低減される。

ティッシュの厚さと、圧縮性と、ダイアフラム

の弾性上に依存するが、この蓋は、ライツシユの蒸発ないし乾燥を低減する如く、容器の改善されたシールを提供する。該シールは、使用の間、キャップ20の開鎖で更に改善される。

本発明のその他の実施例は、勿論可能であり、弾力的または剛性の軟頭円錐形壁部が、ダイアフラムの1つまたは両者に設けられてもよい。軟頭円錐形部が剛性るとき、所望のシールを得るのに必要な弾性は、該ダイアフラムの他の箇所の弾性、または他のダイアフラムの弾性から得られる。ほぼ平坦なダイアフラムを使用してもよく、該ダイアフラムの1つまたは両者は、開口部を包囲ないし接する接触領域を有してもよい。

1つまたは他のダイアフラムは、それによつて閉鎖される容器と一体でもよい。

本発明の蓋は、柔軟性ないし可撓性の性質のものを包含する任意の型式の容器に適用可能である。

#### 4. 図面の簡単な説明

第1図は外側ダイアフラムの一部が内側ダイアフラムを示すために切除され開口位置のキャップ

を有する蓋の平面図、第2図はキャップが開鎖され容器に装着された蓋の第1図のⅠ-Ⅰ線に沿う断面図、第3図は第1図のⅡ-Ⅱ線に沿う断面図を示す。

- 4…管状容器
- 6, 13…内、外側ダイアフラム
- 11, 18…内、外側ダイアフラムの開口部
- 12…開口部のフランジ
- 15…外側ダイアフラムの軟頭円錐形壁部
- 20…外蓋キャップ

代理人 横 村 皓

図面の浄書(内容に変更なし)

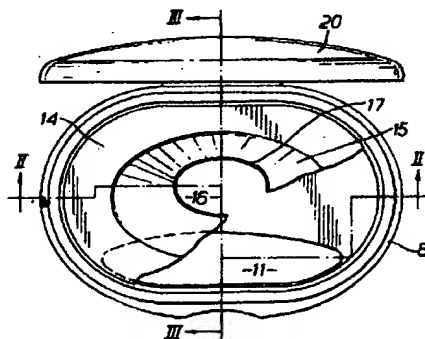


Fig.1

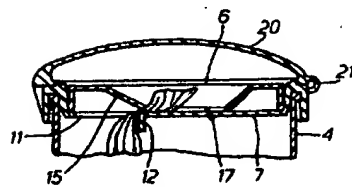


Fig.3

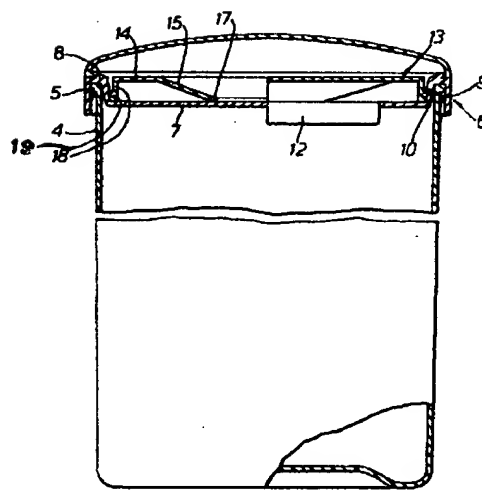


Fig.2

手続補正書 (書式)

昭和54年8月7日

特許庁長官殿

1. 事件の表示

昭和54年特許願第 75937 号

2. 発明の名称

弾力的にシールされるデイスペンサ  
客器の口の蓋

3. 補正をする者

事件との関係 特許出願人

住 所

氏 名

ユニバー ナムローゼ  
ペンノートシャープ

4. 代理人

住 所

氏 名

〒100 東京都千代田区大手町二丁目2番1号  
新大手町ビルディング381  
電話 (211) 3651 (代表)  
(8669) 浅 村 皓

5. 補正命令の日付

昭和 年 月 日

6. 補正により増加する発明の数

7. 補正の対象

明 細 書

8. 補正の内容

別紙のとおり

明細書の修正 (内容に変更なし)

特許庁

54.8.7

出願第2号

特開昭55-29485(5)

手続補正書 (方式)

昭和54年10月3日

特許庁長官殿

1. 事件の表示

昭和54年特許願第 75937 号

2. 発明の名称

弾力的にシールされるデイスペンサ  
客器の口の蓋

3. 補正をする者

事件との関係 特許出願人

住 所

氏 名

ユニバー ナムローゼ ペンノートシャープ

4. 代理人

住 所

氏 名

〒100 東京都千代田区大手町二丁目2番1号  
新大手町ビルディング381  
電話 (211) 3651 (代表)  
(8669) 浅 村 皓

5. 補正命令の日付

昭和54年9月25日

6. 補正により増加する発明の数

7. 補正の対象

図面の修正 (内容に変更なし)

8. 補正の内容

別紙のとおり

特許庁

54.10.3

出願第2号